《タイヤパンク応急修理》のときは…

クイックリファレンス

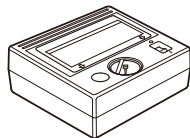
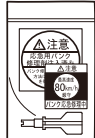
このクイックリファレンスには、一通りの使用方法が記載してあります。このシートだけをお読みいただいても使用できますが、詳しい説明や注意事項については、車両本体の取扱説明書をご覧ください。

タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キットは、パンクしたときに、ホンダ販売店まで車両を移動するために、パンクを応急修理するものです。

●タイヤのトレッド部（接地部）にクギやネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。
●タイヤパンク応急修理キットの応急修理剤1本につき、タイヤ1本を応急修理することができます。

タイヤパンク応急修理キット使用後は販売店へ行き、パンク応急修理キットを使用したタイヤの修理・交換についてはご相談ください。

キット内容

応急修理剤について

●有効期限

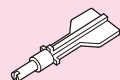
有効期限は製造より6年間です。
有効期限は容器に表示されています。

●使用環境

外気温が下記以外のときは使用できません。

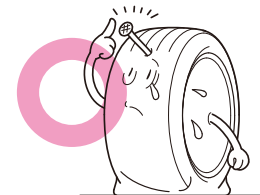
使用環境温度…－30℃～+60℃

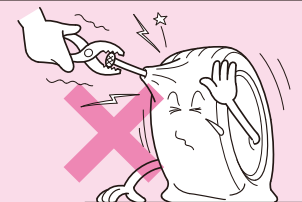
0℃以下の低温状態では応急修理剤の粘度が高くなり、注入作業がしにくくなります。車室内で暖めると注入作業が楽になります。

※これらの部品は、ビニール袋に入っています。

応急修理剤を使用する前に

タイヤパンク応急修理キットの応急修理剤を使用する前に、タイヤの損傷状態を確認します。

応急修理が可能な場合

トレッド部（接地部）にクギやネジなどが刺さった程度であれば、応急修理できます。

 アドバイス

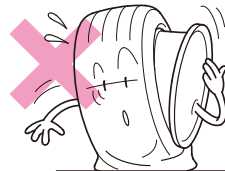
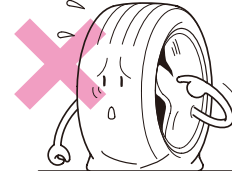
このとき、タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かずに応急修理してください。抜いてしまうとタイヤパンク応急修理キットの応急修理剤では応急修理が不可能になる場合があります。

応急修理が不可能な場合

以下のときは、タイヤパンク応急修理キットの応急修理剤では応急修理できません。
ホンダ販売店または、JAFなどにご連絡ください。

▶ほとんど空気のない状態で走行してタイヤが損傷している時

▶サイドウォールの亀裂・損傷によるパンク

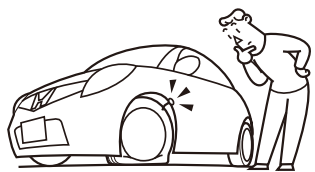
▶トレッドの4mm以上の切り傷や刺し傷がある場合

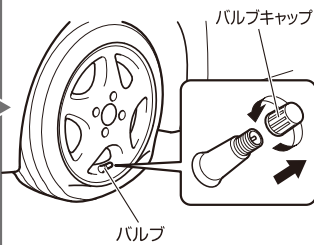
▶タイヤとホイールが明らかに外れている時

▶ホイールが破損している時

▶2本以上のタイヤがパンクした時
※応急修理剤1本につき、応急修理できるタイヤは1本です。

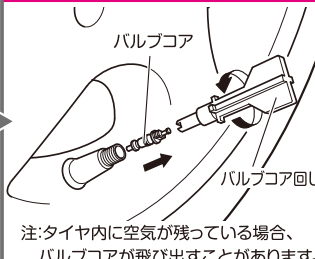
▶詳しくは車両本体の取扱説明書をご覧ください◀

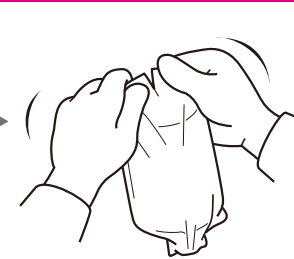
タイヤパンク応急修理のしかたは裏面にあります➡

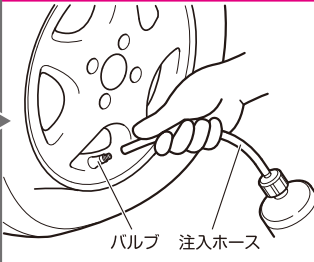
タイヤパンク応急修理のしかた

1 パンクに気づいたら…

刺さったクギやネジなどは抜かずに

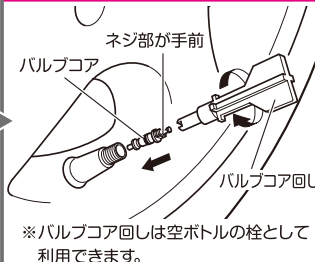
2 バルブキャップを外す

3 コア回しの突起部分を押し当て空気を抜く

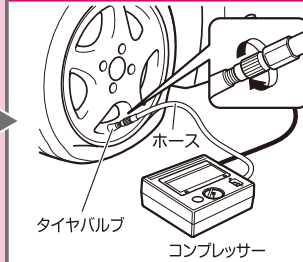
4 バルブコアをバルブコア回しで抜き取る

注:タイヤ内に空気が残っている場合、
バルブコアが飛び出すことがあります。

5 アルミ袋を破る

6 ボトルをよく振る

7 注入ホースをボトルにねじ込む

8 注入ホースをバルブに差し込む

9 修理剤をタイヤに注入する

10 バルブコアをコア回しでねじ込む

※バルブコア回しは空ボトルの栓として
利用できます。

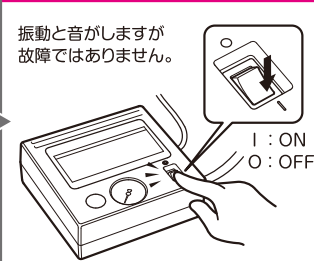
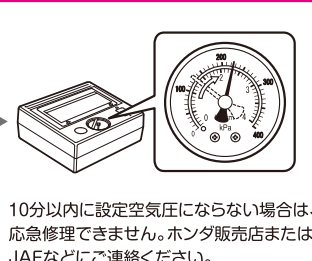
11 コンプレッサーのホースをバルブにねじ込む

12 電源プラグをアクセサリーソケットに差し込む

13 設定空気圧を確認する

例) タイヤ空気圧の表

運転席ドアを開けた
ボディ側に表が貼られています。

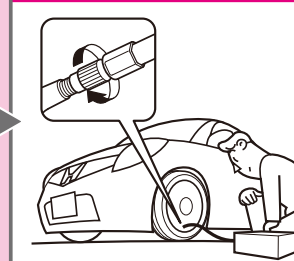
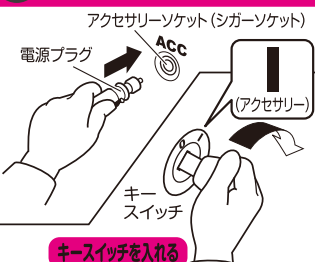
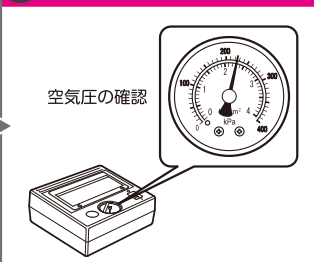
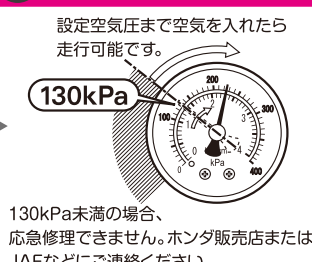
14 コンプレッサーのスイッチをONにする

振動と音がしますが
故障ではありません。

15 設定空気圧まで空気を入れる

10分以内に設定空気圧にならない場合は、
応急修理できません。ホンダ販売店または、
JAFなどにご連絡ください。

16 コンプレッサーを外して収納

汚れなどを拭き取り注入済みシールを貼付ける

17 約10分間または約5km走行する

18 停止後、再度コンプレッサーを接続する

19 電源プラグをアクセサリーソケットに差し込む

20 圧力計で空気圧を確認する

21 130kPa以上の場合、設定空気圧まで空気を入れる

130kPa未満の場合、
応急修理できません。ホンダ販売店または、
JAFなどにご連絡ください。

22 コンプレッサーを外して収納

バルブキャップも取り付ける。

23 速度制限シールを貼る

24 ホンダ販売店に移動する